

二周め 令和七年

森野 水琴

令和七年一月四日

スター・ギフトという仕組みが始まった年が明け、スター・ギフト二年になつた。まだまだ趣味の範囲でのスター・ギフト購入だが、年内には道楽に昇格しそうである。

三が日は駅伝のテレビ観戦ざんまいで、きょうが走り初めである。四月のハーフマラソンに向けて練習に励みたい。

実は古文書解読検定を受験する。今月中旬に検定問題が郵送されてくる。まずは三級から受験するのだが、「古文書くずし字」を勉強しているところである。

令和七年九月十九日

一月に書いたきりで、もう九月である。

古文書解読検定三級は一回めの成績が二十点満点中 三点で不合格、四点以上が合格だった。

二回めの成績は二十点満点中 五点で不合格、七点以上が合格だった。  
上位八割に入れば合格という、ゆるき門にもかかわらず、二回とも不合格であった。来年また挑戦したい。

令和七年十月四日

土曜日にフランス語を習いに行く日常が戻ってきた。  
午後一時からは図書室で勉強することにしている。

隣のテーブルには、常連の女性が熱心に勉強している。

実は、私の故郷に縁のある人だと、風の便りに聞いていたので、どのような縁なのか尋ねてみると、お母さんの実家が私の実家と同じ町（今では隣接した町村が合併して市になつている）にあるという。お母さんの年齢も私と同じ。お母さんのフルネームを旧姓で言つてもらつたら、小中学校の同級生であった。長生きはするものである。こんな素敵なお逢いがある。

図書室で勉強する楽しみが、ますます増えた。